

美幌町高齢者保健福祉計画に関するアンケート【結果・分析】

○調査対象者

美幌町に居住の65歳以上の方で、要支援1・2の認定を受けている方と要介護認定を受けていない方の中から無作為に抽出した1,800人の方を対象

○アンケート実施期間

令和8年2月6日から令和8年3月19日

○アンケート回収率

64.8%（1,167名）

○性別

項目	回答数	構成比	前回構成比
女性	648	55.5%	54.3%
男性	510	43.7%	44.8%
無回答	9	0.8%	0.9%
合計	1,167	100.0%	100.0%

○年齢

項目	回答数	構成比	前回構成比
65歳～69歳	225	19.3%	19.3%
70歳～74歳	251	21.5%	28.7%
75歳～79歳	328	28.1%	21.1%
80歳～84歳	180	15.4%	16.5%
85歳～89歳	112	9.6%	11.1%
90歳以上	70	6.0%	3.1%
無回答	1	0.1%	0.2%
合計	1,167	100.0%	100.0%

◆問1（3）家族構成について、高齢者世帯が70.5%となり、配偶者64歳以下の夫婦2人暮らし世帯も含めると73.7%となる。

項目	回答数	構成比	前回構成比
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	509	43.6%	48.4%
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	37	3.2%	3.4%
1人暮らし	287	24.6%	18.4%
親と同居	27	2.3%	2.8%
息子・娘との同居(2世帯住宅含む)	267	22.9%	21.7%
その他	33	2.8%	4.6%
無回答	7	0.6%	0.7%
合計	1,167	100.0%	100.0%

⇒高齢夫婦のみの世帯と独居を合わせると相当な割合となり、家族による支援力が限定される世帯が多いことが分かる。

今後、独居が増える可能性も高く、安否確認や引きこもり対策、災害時の避難支援等の充実が必要である。

- ◆問1（4）介護・介助の必要性について、82.3%が「必要ない」と回答しているが、「必要である」と回答した方の原因を見ると、高齢化、関節疾患、脳疾患、生活習慣病等によるものが多い。

項目	回答数	構成比	前回構成比
介護・介助は必要ない	961	82.3%	80.4%
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	108	9.3%	8.4%
現在、何らかの介護を受けている	75	6.4%	9.3%
無回答	23	2.0%	1.9%
合計	1,167	100.0%	100.0%

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(複数回答)

項目	回答数	構成比	前回構成比
高齢による衰弱	32	17.5%	13.2%
関節の病気(リウマチ等)	29	15.8%	16.5%
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	27	14.8%	11.5%
心臓病	26	14.2%	15.4%
糖尿病	22	12.0%	17.0%
骨折・転倒	22	12.0%	19.2%

- ◆問2（4）過去1年間の転んだ経験について、「1度ある」が28.9%、「何度もある」が12.9%で、約4割に転倒経験がある。また、（5）転倒に対する不安については、「とても不安」16.4%、「やや不安」40.3%で、半数以上が転倒に不安を感じている。

(4)過去1年間に転んだ経験がありますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
ない	663	56.8%	56.7%
1度ある	337	28.9%	28.9%
何度もある	150	12.9%	12.7%
無回答	17	1.5%	1.8%
合計	1,167	100.0%	100.0%

(5)転倒に対する不安は大きいですか

項目	回答数	構成比	前回構成比
とても不安である	191	16.4%	18.1%
やや不安である	470	40.3%	40.0%
あまり不安でない	315	27.0%	25.6%
不安でない	166	14.2%	14.0%
無回答	25	2.1%	2.2%
合計	1,167	100.0%	100.0%

- ◆問2（6）外出状況について、「週2～4回」、「週5回以上」を合わせると71.0%となり、昨年と比べて外出回数が「あまり減っていない」、「減っていない」を合わせると65.1%となることから、よく外出しているように見えるが、外出を控えている方も約3割となり、控えている理由として「足腰の痛み」、「外での楽しみがない」、「交通手段がない」などとなっている。

(6)週に1回以上は外出していますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
週5回以上	351	30.1%	26.6%
週2～4回	477	40.9%	46.2%
週1回	233	20.0%	17.0%
ほとんど外出しない	91	7.8%	8.6%
無回答	15	1.3%	1.7%
合計	1,167	100.0%	100.0%

(7)昨年と比べて外出の回数が減っていますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
とても減っている	63	5.4%	5.6%
減っている	333	28.5%	30.4%
あまり減っていない	381	32.6%	34.6%
減っていない	379	32.5%	28.2%
無回答	11	0.9%	1.2%
合計	1,167	100.0%	100.0%

(8)外出を控えていますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
いいえ	822	70.4%	59.7%
はい	332	28.4%	39.2%
無回答	13	1.1%	1.1%
合計	1,167	100.0%	100.0%

* 外出を控えている理由は、次のどれですか(複数回答)

項目	回答数	構成比	前回構成比
足腰などの痛み	155	46.7%	32.3%
外での楽しみがない	81	24.4%	18.6%
交通手段がない	56	16.9%	9.7%
トイレの心配(失禁など)	45	13.6%	8.2%
経済的に出られない	44	13.3%	6.9%

◆問2 (9) 外出する際の移動手段について、自動車を自分で運転する人が 64.8%と突出しており、自動車への依存度が高い。また、免許保有者も 69.6%と高い値となっている。

(9)外出する際の移動手段は何ですか(複数回答)

項目	回答数	構成比	前回構成比
自動車(自分で運転)	756	64.8%	60.3%
徒歩	445	38.1%	40.8%
自動車(人に乗せてもらう)	301	25.8%	25.5%
タクシー	200	17.1%	16.6%
自転車	109	9.3%	10.1%
路線バス	69	5.9%	7.9%
もービー	38	3.3%	-

(10)自動車の運転免許証をもっていますか

項目	回答数	構成比
持っている	812	69.6%
もともと持っていない	192	16.5%
返納した	139	11.9%
無回答	24	2.1%
合計	1,167	100.0%

⇒介護が必要となる原因として、疾病だけでなく、高齢による衰弱や骨折・転倒など、介護予防によって一定程度リスクを低減できる要因も含まれていることから、生活習慣病対策と介護予防を分断せず一体的に進める必要がある。

転倒は骨折を通じて要介護状態となる大きな要因であり、日頃から転倒に対する不安が大きいこと、「足腰などの痛み」が外出を控える原因につながっていることから、フレイル予防等の健康づくりが必要であるとともに、身体的理由だけでなく、「外出する目的」も課題となっていることから、通いの場、買物、交流、趣味活動など「出かけたくなる場所」と一体的に考える必要がある。

運転免許証を返納後に外出機会が減少する可能性があり、自動車を運転できなくなった後の生活を支える移動手段が課題となる。

- ◆問4（3）～（8）の日常生活（1人で外出や買い物、食事の準備など）はできると回答している方が70～80%と多く、（10）趣味があるかについては、65.0%が「ある」と回答しているものの、（11）生きがいについては、「思いつかない」と回答している方が44.2%となっている。

（10）趣味はありますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
趣味あり	758	65.0%	65.4%
思いつかない	359	30.8%	28.7%
無回答	50	4.3%	5.8%
合計	1,167	100.0%	100.0%

（11）生きがいはありますか

項目	回答数	構成比	前回構成比
生きがいあり	573	49.1%	49.5%
思いつかない	516	44.2%	42.6%
無回答	78	6.7%	8.0%
合計	1,167	100.0%	100.0%

- ◆問5（1）ボランティアグループ、サークル、老人クラブやしゃきっとプラザでの運動などに、どのくらい参加しているかについては、50%以上の方が「参加していない」となっている。しかし、（2）地域住民有志による活動で、いきいきした地域づくりを進めるとしたら参加したいかについては、「参加してもよい」、「是非参加したい」、「既に参加している」を合わせると52.6%と半数の方が参加に意欲的である。

項目	回答数	構成比	前回構成比
既に参加している	58	5.0%	4.3%
是非参加したい	45	3.9%	6.8%
参加してもよい	510	43.7%	44.6%
参加したくない	454	38.9%	36.3%
無回答	100	8.6%	8.0%
合計	1,167	100.0%	100.0%

- ◆問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動やグループ活動を行って地域づくりを進める際、企画・運営として参加してみたいかについては、半数が「参加したくない」と回答しているが、「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答している方も29.2%となっている。

項目	回答数	構成比	前回構成比
既に参加している	41	3.5%	3.7%
是非参加したい	15	1.3%	1.5%
参加してもよい	326	27.9%	30.4%
参加したくない	643	55.1%	54.2%
無回答	142	12.2%	10.2%
合計	1,167	100.0%	100.0%

⇒趣味がある方は比較的多いが、生きがいは思いつかないとの回答が44.2%となり、現在あるサークル等に「参加していない」とする回答が多い。一方で、健康づくりや趣味等の地域活動には、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」を合わせると一定の参加可能

性があることから、現在あるサークル等の周知とともに、実施しやすい環境整備も進めていく必要がある。

◆問5（４）あなたは地域でどんなボランティア活動ができますかについては、「見守り・声かけ」、「ゴミ出し」、「配食の手伝い」などの回答が多く、（５）どんな活動形態であれば、ボランティア活動に参加しやすいと思うかについては、「身近な場所で行われている」、「一緒に活動する仲間がいる」、「初めてでも行ける雰囲気がある」などの回答が多くを占めている。

項目	回答数	構成比	前回構成比
できない	451	38.6%	36.9%
見守り・声かけ	242	20.7%	23.8%
ゴミ出し	154	13.2%	14.5%
配食の手伝い	111	9.5%	10.5%
買い物代行	105	9.0%	9.1%
外出時の送迎	100	8.6%	9.4%
掃除・洗濯	88	7.5%	9.4%
外出同行(通院・散歩など)	77	6.6%	7.6%
調理	66	5.7%	5.8%
サロンなど、通いの場のサポート	51	4.4%	2.7%
介護施設等でのお手伝い	50	4.3%	4.2%
その他	47	4.0%	4.6%
無回答	187	16.0%	14.3%
実回答数	1,167	-	-

(5)どんな活動形態であれば、ボランティア活動に参加しやすいと思いますか(いくつでも)

項目	回答数	構成比	前回構成比
身近な場所で行われている	342	29.3%	33.4%
一緒に活動する仲間がいる	304	26.0%	29.6%
初めてでも行ける雰囲気がある	257	22.0%	25.4%
頻繁な活動ではないこと(1回限りなど)	185	15.9%	15.8%
金銭的な負担が小さい、若しくは無い	169	14.5%	13.7%
自分の資格や趣味等が活かせる	133	11.4%	14.0%
活動団体から呼びかけがある	103	8.8%	8.7%
介護ボランティアポイントが付く	23	2.0%	1.9%
その他	83	7.1%	9.4%
無回答	370	31.7%	28.9%
実回答数	1,167	-	-

⇒ボランティア活動においては、何かしらの活動ができると考えている方も多い。参加しやすい活動形態の回答を踏まえ、高齢者をサービスの「受け手」としてだけ捉えず、元気な高齢者が地域の「支え手」として活動できる仕組みを作り、その活動自体を介護予防につなげることが重要である。

◆問6（１）就労状態について、「引退した」と回答する方が47.3%いる一方で、非常勤16.9%、自営業11.9%。常勤8.1%など、高齢期にも就労している方が一定数存在する。

項目	回答数	構成比
引退した	552	47.3%
非常勤(パート・アルバイト等)	197	16.9%
自営業	139	11.9%
常勤(フルタイム)	94	8.1%
職に就いたことがない	72	6.2%
休職中	11	0.9%
その他	49	4.2%
無回答	107	9.2%
実回答数	1,167	-

⇒就労は、収入確保だけでなく、外出、社会参加、生きがい、他者との交流という介護予防上の効果も期待できる。

就労、ボランティア、地域活動などを別々に考えるのではなく、高齢者が年齢や身体状況に応じて社会とつながりを持ち続けられる環境づくりが必要である。

◆問7（5）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手について、「そのような人はいない」と回答している方は、38.7%を占めている。

項目	回答数	構成比	前回構成比
そのような人はいない	452	38.7%	39.8%
地域包括支援センター・役所・役場	254	21.8%	22.7%
医師・歯科医師・看護師	216	18.5%	17.2%
自治会・町内会・老人クラブ	115	9.9%	10.0%
社会福祉協議会・民生委員	98	8.4%	10.3%
ケアマネジャー	59	5.1%	6.2%
その他	26	2.2%	3.0%
無回答	180	15.4%	13.6%
実回答数	1,167	-	-

⇒今後、独居者が増えていくことが想定される中、家族や友人・知人以外にも相談相手がいることの重要性は高く、地域による見守りの強化など孤立防止を図ることが必要である。

また相談先として、「地域包括支援センター・役所・役場」と回答している方は、21.8%にとどまっている。制度上の相談窓口を設置しているだけで、高齢者本人にとって「相談できる相手」として十分定着していない可能性があることから、重層的な見守り・相談体制を強化する必要がある。

- ◆問 8（1）健康状態について、「とてもよい」、「まあよい」と回答している方が多い一方で、
（6）現在治療中の病気については、高血圧 49.3%が突出し、目の病気 15.5%、糖尿病 14.6%、高脂血症 11.9%、心臓病 10.6%等が続いている。

(1)現在のあなたの健康状態はいかがですか

項目	回答数	構成比	前回構成比
とてもよい	78	6.7%	6.2%
まあよい	790	67.7%	67.9%
あまりよくない	223	19.1%	19.3%
よくない	30	2.6%	2.9%
無回答	46	3.9%	3.7%
合計	1,167	100.0%	100.0%

(6)現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(複数回答)

項目	回答数	構成比	前回構成比
高血圧	575	49.3%	42.8%
目の病気	181	15.5%	12.9%
糖尿病	170	14.6%	16.1%
高脂血症(脂質異常)	139	11.9%	12.3%
心臓病	124	10.6%	13.0%
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	121	10.4%	11.8%
腎臓・前立腺の病気	110	9.4%	9.8%
耳の病気	75	6.4%	6.8%
がん(悪性新生物)	69	5.9%	4.1%
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	65	5.6%	5.0%
胃腸・肝臓・胆のうの病気	59	5.1%	7.3%
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	46	3.9%	4.1%
外傷(転倒・骨折等)	39	3.3%	3.9%
血液・免疫の病気	20	1.7%	0.9%
うつ病	12	1.0%	1.7%
認知症(アルツハイマー病等)	7	0.6%	1.1%
パーキンソン病	7	0.6%	1.0%
その他	100	8.6%	5.7%
ない	140	12.0%	14.9%
無回答	91	7.8%	7.8%
実回答数	1,167	-	-

⇒問 1（4）①の介護・介助が必要になった原因でも、心臓病や糖尿病が上位を占めていたことから、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を進め、医療機関とも連携しながら生活習慣病の重症化予防とフレイル予防を一体的に進めることが重要である。

- ◆問 8（8）介護が必要になった場合の生活は、自宅生活を希望する方が 43.8%を占めている。

項目	回答数	構成比	前回構成比
介護保険サービスを利用しながら、自宅で生活する	511	43.8%	44.4%
常に介護が受けられる特別養護老人ホームなどの施設で生活する	140	12.0%	14.1%
必要に応じた介護を受け、比較的自由に過ごせるサービス付き高齢者住宅などで生活する	136	11.7%	9.2%
家族などに介護してもらい、介護保険サービスを利用せずに自宅で生活する	67	5.7%	6.9%
わからない	240	20.6%	18.5%
その他	18	1.5%	1.3%
無回答	55	4.7%	5.6%
合計	1,167	100.0%	100.0%

⇒介護が必要になっても、在宅生活を送りたいという希望が強いことを示していることから、居宅サービス（ヘルパーやデイサービスなど）の充実のみならず、見守り・買い物・除雪等を含めた生活支援を組み合わせ、在宅生活の継続性を高める施策が重要となる。

- ◆問9（1）町内の高齢者施設の数についてどう思うかは、「少ない」と回答している方が27.2%いる一方で、「よくわからない」が47.3%と最も多い。また、現在施設申込みを「検討中」は4.7%、「申請済み」は0.2%にとどまっている。

項目	回答数	構成比	前回構成比
よくわからない	552	47.3%	38.9%
少ない	318	27.2%	34.3%
普通	253	21.7%	21.2%
多い	7	0.6%	1.0%
無回答	37	3.2%	4.7%
合計	1,167	100.0%	100.0%

⇒実際の待機者数、要介護度、施設稼働率、将来の要介護者数、85歳以上人口等の客観的データと合わせて施設需要を判断する必要がある。

- ◆問10（1）介護保険料とサービスの在り方について、「わからない」が35.5%で最も多く、また、「保険料もサービスも現状程度」が23.8%、「サービスを抑えてもの保険料を低く」が16.3%、「保険料が高くなってもサービス充実」が12.5%となっており、町民の意向は一方向ではない。

項目	回答数	構成比	前回構成比
わからない	414	35.5%	31.2%
保険料もサービスも現状の程度でよい	278	23.8%	25.3%
サービスの水準を今より抑えても、保険料が低くなる方がよい	190	16.3%	16.7%
保険料が今より高くなってもよいから、施設を増やすなどの介護サービスを充実させた方がよい	146	12.5%	14.8%
その他	29	2.5%	2.9%
無回答	110	9.4%	9.2%
合計	1,167	100.0%	100.0%

⇒高齢になるほどサービスの必要性は高まる一方で、保険料とサービス量の関係については判断が難しいことがうかがえる。次期計画においても、単に保険料額を示すのではなく、「どのサービスにどれだけ給付額が必要で、その結果として保険料がどうなるか」を分かりやすく説明することが求められており、サービスの充実と保険料負担のバランスを図りながら、判断していく必要がある。

◆問 1 3 (1) 町で提供している各福祉サービスについて、「今後利用したい」とする割合は高い。

・ 移送サービス	62.5%
・ 緊急通報システム	60.6%
・ 認知症高齢者等 S O S ネットワーク	54.0%
・ 短期宿泊利用サービス	52.8%
・ 紙おむつ等給付	52.7%
・ 住宅設備改善助成	52.4%
・ 配食サービス	51.5%
・ 在宅高齢者等除雪サービス	51.4%

⇒各サービスともニーズは高く、今後も安定した提供と周知が必要と考えるが、一方で、実際の利用量と同一ではないことも注意が必要である。移送サービスや配食サービス、在宅高齢者等除雪サービスなど、マンパワー不足が懸念される事業もあることから、利用意向だけから事業量を決定せず、年齢、独居、要介護状態、免許返納等との分析や実際の利用実績を踏まえて今後の需要を推計する必要がある。